

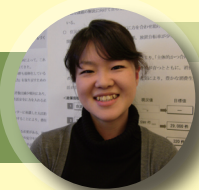
U35 のメンバーが市民にわかりやすくレポートします！

傍聴記

10年後の自分と、京都のまちの、
ミライとモンダイを考える。

京都市基本計画審議会

レポーター 松田 ゆいさん



1981年大阪府生まれ。大学進学を機に京都へ。2005年に京都新聞入社。これまで京都府南部、滋賀県南部に赴任し、09年から京都市の右京・西京区を担当。

第5回うるおい部会

開催日：平成22年3月31日(水) 会場：京都ホテルオークラ
主な議題：基本計画第1次案「分野別(環境、人権・男女共同参画、青少年の成長と参加、市民生活、文化、スポーツ)方針」の検討

POINT

1

「カタカナ語」へ厳しい指摘

RENOVATION
LIFESTYLE
STYLE

会議では、政策の中身はもちろん、基本計画で使われる「言葉づかい」に多くの注文がつけました。特に、カタカナを安易に使いすぎでは、という声が上がりました。「リノベーション」や「ライフスタイル」などです。日本語で表現できないかどうか、もう少し吟味を重ねてほしいですね。文章のわかりやすさにつながる問題だと思います。

会議の
ポイント

POINT

2

10年後の目標値は妥当か？



基本計画には「政策指標」が掲げられるそうですが、その指標の10年後の目標値について「10年後にしては微妙」「なぜこの指標なのか」といった指摘が相次ぎました。確かに、現在の数字に少し上乘せただけのような目標も見受けられます。10年後の目標値なので、時には意気込みや大胆さも見せてほしいものです。

この会議を通して思ったこと

審議会の委員の職種はさまざまで、出てくる意見も多種多様でした。さて、この意見をどのように京都市側は基本計画の中に落とし込んでいくのだろうか。それがとても気になります。あれもこれも盛り込もう、となると一見網羅的であっても、目指したいところがあやふやになるかもしれません。と、いって、せっかく多様な人からいただいた意見は邪険にできません。吸い上げた幅広い市民の意見をどのように実際の政策に落とし込んでいくか、基本計画の出来上がりを楽しみにしたいと思います。

複数の委員から、「子ども向けの基本計画を作っては」という意見が出ました。理由は、10年後の京都の姿は次世代の担い手にこそ知ってほしい、ということが一つ。二つ目には、子どもにも分かるくらい「簡潔な」「言葉がやさしい」基本計画が必要、という理由です。実際に作るかどうかは別にして、基本計画を子どもも読んで分かるようにする、というのは大切だと思います。子どもが分かれば大人には伝わります！子ども(せめて中学生ででしょうか)に伝えているのだ、という意識も忘れずに基本計画をまとめてほしいと思います。

審議会を傍聴して、
期待すること

今年は10年に一度の、京都市の10年後を考える年です。
市政をよく知り、よく考え、利用し、参加し、仲良くなろう

